尼崎市立歴史博物館だより No.3

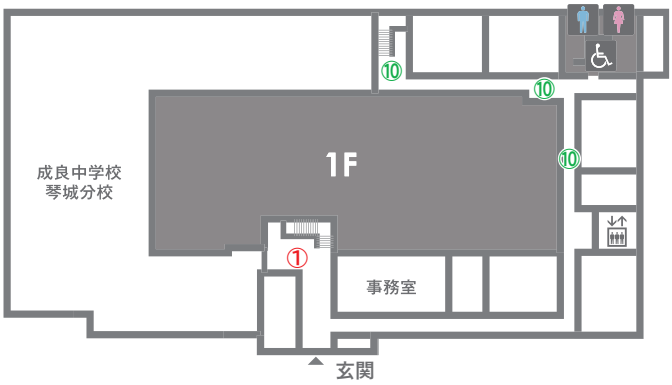
常設展示の魅力大特集号

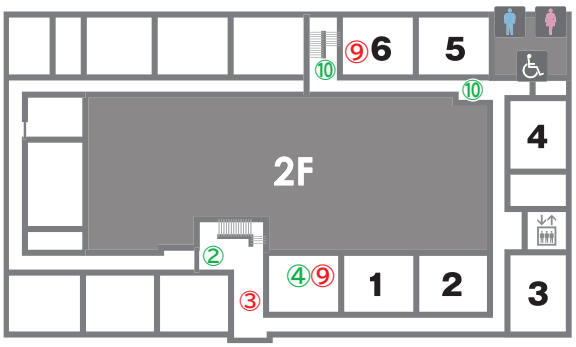
令和5年(2023)10月

モダンなたたずまいの正面玄関周辺

尼崎市立歴史博物館では、尼崎の原始・古代から近・現代までの歴史を、2階の常設展示室6室を使い、わかりやすく展示しています。また、昭和13年(1938)竣工の高等女学校の旧校舎を転用した博物館であることを活かして、廊下やホール、旧技術棟でも様々な展示を行っています。

尼崎市立歴史博物館だより第3号では、当館の常設展示の魅力を、当館ナビゲートキャラクターの本丸琴(ほんまること)学芸員が紹介します。





黒数字の部屋が常設展示室です。

① 玄関入るとすぐ展示

壁面のスクラッチタイルなど昭和戦前の趣を残した玄関を入ると真正面に地層の実物標本があります。当館の南に隣接している小学校で発掘調査を行った際にはぎ取った地層断面の実物です。その左には尼崎2000年の歴史を1分のアニメーション動画で紹介したモニターがありますが、ボタンを押すと地層標本の解説に切り替わりますよ。

② 有名な映画のロケ地になりました

地層標本隣の階段を上ると2階ホールです。2階ホールでは、当館の前身である尼崎市立文化財収蔵庫時代に撮影が行われた「ALWAYS三丁目の夕日 '64」と「焼肉ドラゴン」の2本の映画を紹介したコーナーがあります。撮影で使用した小道具も展示していますよ。

ロケで使われた看板です。後ろの階段の格子状の手すりは戦前のままです。かっこよくありません？

③ 常設展示の始まりを告げるシンボル

2階ホールを進むと巨大な木の塊(かたまり)があります。何とも複雑な形をしていますが、これは、尼崎市北部に所在する弥生時代の遺跡「武庫庄遺跡(むこのしょう)」から出土した柱根(ちゅうこん)の実物で、直径は推定約95cmあります。弥生時代の遺跡から出土した柱根として現在、日本最大です。常設展示の始まりを告げるシンボルとも言える貴重な文化財で、尼崎市指定文化財です。

日本一です

④ 学校の教室だ

常設展示室のひとつ手前にガイダンス室があります。団体見学の際にガイダンスを行う部屋ですが、普段は自由に見学や休憩ができます。学校の教室そのままで、ほとんどの机・いすは中学校だった時代に生徒たちが使用していたものです。学生時代に戻ったつもりで記念撮影する方もおられます。

後ろにあるエアコンのような大きな機械は、昭和40年代に設置された空気清浄機です。大気汚染が大変だった時代の歴史遺産ですね。

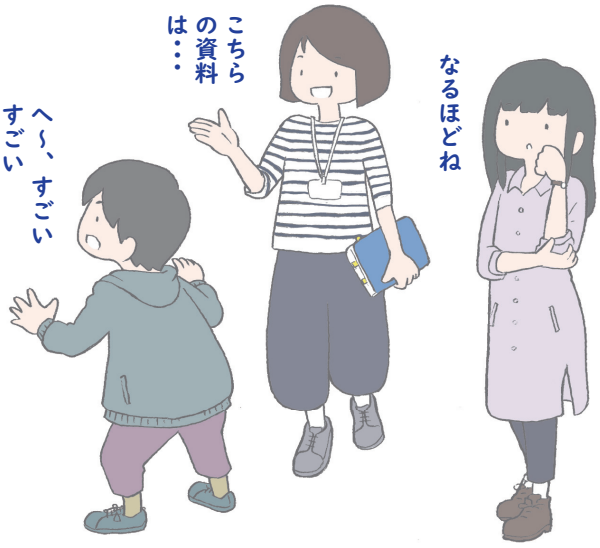
⑤ いよいよ常設展示室へ

ガイダンス室を出るといよいよ常設展示室です。校舎を転用しているため、旧教室を改装した常設展示室が①原始・古代、②古代・中世、③近世Ⅰ、④近世Ⅱ、⑤近代、⑥現代と時代順に6室並んでいます。ご関心のある展示室だけを見ていただくこともできますし、各展示室の前の廊下には時代の概要を紹介した大型パネルがありますので、このパネルを見ていただくだけでも尼崎のおおまかな歴史がわかるようになっています。

右の写真は、常設展示室Ⅰの大型パネルと展示室内の様子です。こんな感じで6室あるので、常設展示だけでも結構見ごたえがありますよ。

⑥ 私たちの出番です！

歴史の展示ってむずかしいですよね。当館では展示をわかりやすく見ていただくために私たちナビゲートキャラクターが活躍しています。通称「ナビキャラ」は私を含めて3人います。私本丸琴(イラスト中央)は現在猛勉強中の当館の新人学芸員で、当館を訪れた中学2年生の戸田幸(とだゆき)ちゃん(右)と小学6年生の戸田忠(ただし)くん(左)の姉弟を私が案内するという設定で、私たちの驚きや関心、疑問を展示パネルやキャプションの中で表現しています。ぜひ、パネルやキャプションを読みながら展示を見てください。



⑦ いろんなところにQ&A

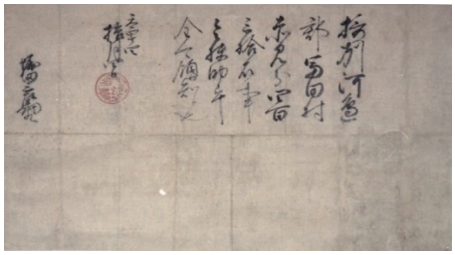
廊下の大型パネルには扉が4枚あります。これはQ&Aになっていて、その時代に関する簡単な問題が扉に書かれていて、扉を開けると答えがあるという単純な仕組みになっています。また、展示室にはQ&Aボックスもあり、こちらはボックスの引き出しを引くと答えがあります。どちらも学芸員自作の問題ですので、ときどき問題が変わります。

ここはどこ？私はだれ？の問題は常設展示室5と6にありますよ

⑧ 実物資料中心の展示

常設展示では尼崎城本丸や幕末に尼崎沖にやってきたロシア船の模型、出土遺物や古文書等の複製品も展示していますが、ほとんどの展示資料はその時代に実際に使われていた実物です。特に尼崎城・尼崎藩に関する実物資料は当館収蔵資料のなかでも特筆すべきもので、展示替えをしながら常設展示室3と4に常に何点か出展しています。実物資料には長期間展示できないものもあり、時々展示資料を交換していますので、もしかしたら織田信長や豊臣秀吉、近松門左衛門の実物書状を見ることができるかもしれませんよ。

尼崎城は現存しませんが、城に関する歴史資料はたくさん残っており、その何点かは常設展示で見ることができます。



豊臣秀吉の朱印状です。現在の尼崎市東園田町あたりの領地支配に関する資料です。このような資料は長期間展示できないので、展示替えしながら期間を限って公開しています。

⑨ ちょっとうるさい博物館です

ガイダンス室では、昭和15年（1940）制作の「尼崎市歌」など尼崎市がこれまでに作ってきた5曲の歌をエンドレスで再生しています。また、常設展示室6では、昭和30年代から50年代に尼崎市が制作した広報番組をエンドレスで上映しており、ほぼ毎月番組が替わります。他にも廊下やホールで動画を再生していることもありますので、いろんなところから音声や音楽が聞こえるちょっとうるさい博物館です。

あの有名な都はるみさんは、昭和40年（1965）に「ド根性節」という尼崎の歌のレコードを出しています。ご存じでしたか？

常設展示室6の映像コーナーでは、ほぼ毎月、上映する番組を替えていますので、何回も見に来てくださいね。

⑩ ホールや廊下のあちこちにも展示が

校舎を転用した博物館ですので広いホールや長い廊下があり、そちらでも展示を行っています。1階の西側廊下では、市内の発掘調査で出土した土器と発掘調査の方法を紹介したパネルの展示を行い、南側廊下とホールでは昭和の時代に使われていた懐かしい家電製品や昭和のこどもたちを撮影した写真パネルの展示（「歴史博物館昭和通」と称しています）を行っています。2階廊下ではむかしのミシンやオルガン等と尼崎の公害について解説したパネルを展示し、3階ではホールで日本遺産と尼崎市域の巨大な航空写真の展示、廊下で尼崎の現代史年表パネルの展示を行っています。

1階の南ホールには、むかしの電化製品などを展示しています。この並びの廊下には、むかしのこどもたちの写真も展示しているよ。

3階の北ホールには床に最新の尼崎市全体の航空写真を貼り、壁にはむかしの航空写真を展示しています。こどもたちに大人気で、自分の小学校を一生懸命に探しています。

1階廊下には尼崎の遺跡から出土した土器を展示しています。遺跡の発掘調査も歴史博物館の重要な仕事です。

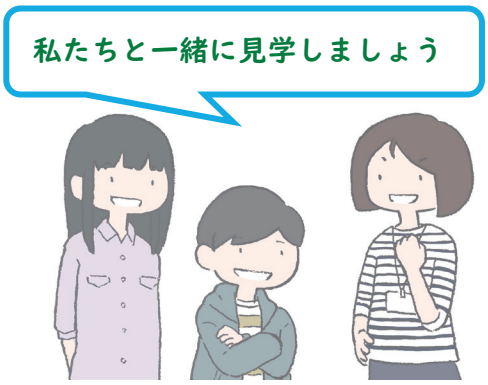
⑪ 産業資料展示室もご観覧ください

正面玄関を出て右手に産業資料展示室があります。昭和戦前に尼崎に所在した火力発電所の巨大なタービンや、大正期に輸入されたリング精紡機（せいぼうき）などの大型産業資料を展示しています。中央に展示しているのは長らく尼崎市の計量の基準となった、大正時代製作の基準天秤（てんびん）です。工業都市尼崎ならではの展示室ですね。

タービンと精紡機は大きすぎて入口から入らなかったので、壁を一部壊して搬入し、再度、壁をつくったのですよ。

⑫ 当館は無料です&団体見学は学芸員が常設展示を案内します

当館は入館無料です。常設展示だけではなく特別展・企画展も無料でご観覧いただけます。これは、市民の皆さん、市外から尼崎を訪れる皆さんに、尼崎の長い歴史や豊富な文化財を広く知っていただきたいからです。また、団体でのご来館の際は学芸員が常設展示を案内します。必ず事前のお申込みをお願いいたします。「博物館ってむずかしそうで敷居が高い」と思われるかもしれませんが、一度、当館に来てみてください。決してそんなことはありませんよ。



尼崎市立歴史博物館だより　第3号

編集・発行　尼崎市立歴史博物館
〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2
電話　06－6489－9801（文化財担当）
06－4868－0362（埋蔵文化財専用）
06－6482－5246（企画担当・史料担当）
FAX　06－6489－9800
発行日　令和5年(2023)10月1日
https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/bunkazai_0/index.html

阪神電鉄尼崎駅から南東へ徒歩約10分